

用語の解説

用語	意味
NO	一酸化窒素 (Nitric oxide)
NO ₂	二酸化窒素 (Nitrogen dioxide)
NO _x	窒素酸化物 (Nitrogen oxide) 一酸化窒素と二酸化窒素をあわせたもの
SO ₂	二酸化硫黄 (Sulfur dioxide)
Ox	光化学オキシダント (Photochemical oxidant) 大気中で太陽光線を受けて光化学反応により生成されるオゾン、パーオキシアセチルナイトレートその他の酸化性物質。
SPM ①	浮遊粒子状物質 (Suspended particulate matter) 大気中に浮遊する粒子状物質であって、その粒径が 10μm 以下のもの。
PM _{2.5} ②	微小粒子状物質 (Particulate Matter 2.5) 大気中に浮遊する粒子状物質であって、粒径が 2.5μm の粒子を 50%の割合で分離できる分粒装置を用いて、より粒径の大きい粒子を除去した後に採取される粒子。
オッズ ③	ある事象の起こる確率 (p) と起こらない確率 (1-p) の比 (p/(1-p))。
オッズ比 ④	ある疾患などへの罹りやすさを 2つの群で比較して示す統計学的な尺度で、群 1 のオッズ (p ₁ /(1-p ₁)) と群 2 のオッズ (p ₂ /(1-p ₂)) の比 (p ₁ /(1-p ₁)) / (p ₂ /(1-p ₂)) で定義される。オッズ比が 1 とは、ある疾患への罹りやすさが両群で同じということであり、1 より大きいとは、疾患への罹りやすさがある群でより高いことを意味する。逆に、オッズ比が 1 より小さいとは、ある群において疾患に罹りにくいことを意味する。
ロジスティック回帰モデル	従属変数があり・なしなど 2 値変数の場合に利用される回帰モデルで、各独立変数に対してオッズ比が計算される。例えば、ある疾患などへの罹りやすさに性別、年齢、既往歴などの多くの因子が関係する可能性がある場合、それぞれの因子について他の因子が一定であると仮定したオッズ比が計算される。
ATS-DLD 質問票 ⑤⑥	1978 年に米国胸部疾患協会 (American Thoracic Society) が米国立心臓・肺・血液研究所の肺疾患部門 (National Heart,Lung,Blood Institute、Division of Lung Disease) の委託により開発した ATS-78 標準質問票をもとに、環境庁委託研究で日本語版が作成され、多くの地域におけるパイロット調査の結果を踏まえて改良されたものが、いわゆる環境庁版 ATS 呼吸器症状質問票である。 平成 8 年より開始した本調査では、調査対象者への負担を軽減し、協力率を向上するため、パイロット調査により妥当性を検証した簡易質問票を使用している。

参考資料

- ①大気汚染に係る環境基準について (昭和 48 年 5 月 8 日 環告 25)
- ②微小粒子状物質に係る環境基準について (平成 21 年 9 月 9 日 環告 33)
- ③環境・健康科学辞典 (日本薬学会)
- ④ファルマシア Vol. 43, No. 10, 2007 (日本薬学会) を一部改変
- ⑤局地的大気汚染の健康影響の調査手法に関する調査報告書《中間取りまとめ》(平成 5 年 3 月 環境庁環境保健部)
- ⑥大気汚染に係る環境保健サーベイランスシステムの構築のための調査報告書《中間取りまとめ》(平成 5 年 3 月 環境庁環境保健部)